

## 平成 24 年度福祉医療機構 助成事業報告書

NPO 法人 POSSE では、独立行政法人福祉医療機構より 2012 年 4 月～2013 年 3 月までの期間、300 万円の助成（平成 24 年度社会福祉振興助成金）をしていただき、仙台市における被災者生活支援事業（仮設住宅における被災者の制度利用支援事業）を実施しました。事業の内容や実績、成果等について報告致します。

### 1. 助成事業の概要

#### (1) 目的

行政の手が届かず福祉制度を利用できていない仮設住宅に住む被災者、特に高齢者や障害者が、諸社会保険や公的扶助等の福祉制度を活用することを通し、健康で文化的な生活を実現していく。

#### (2) 内容

仮設住宅に住む被災者を対象に、継続的に仮設住宅に訪問し、日常生活の相談を行い、必要に応じ、被災者が利用可能な福祉制度の情報の提供、さらには具体的な手続きの援助支援を実施する。

#### (3) 背景

仮設住宅には、周囲に親戚や知人のいない高齢者や障害を持った人が多く暮らしている。これまでのニーズ調査によって明らかになったのは、震災を機に健康保険が未加入状態になった者や、経済的な困窮状態にあるが生活保護の申請を行っていない者、義捐金の申請すらままならない状態で放置されている被災者の存在である。こうした現状から、被災者が健康で文化的な生活を実現していくために、福祉制度の情報提供および活用の支援をすることが課題となっている。具体的には、被災者に対する戸別訪問を実施し、継続的にきめ細やかな聞き取りを行うことによってニーズを掘り起こし、個別のニーズに応じた制度の情報提供や具体的活用支援を行うことが必要である。同時に、これらの課題に対応していく技術を持った相談員を養成する必要があり、人材の育成を通じてより多くのニーズに応えていくことが求められている。

### 2. 助成事業の実績

事業目的を果たすため、大きく 5 つのことに取り組んだ。

#### (1) 活動拠点の整備・維持

事業を実施するための活動基盤としての拠点を維持・整備した。仙台市公共施設（仙台市市民活動サポートセンター内）に事務所を構えた。

#### (2) ボランティアの募集・組織

多くの支援を実施するために、それに対応した人員の確保を図った。宮城県、東京都において4月と10月にビラの配布、ネット宣伝、説明会を実施した。

(3) スタッフの雇用及び、ボランティアの研修・育成

被災者を継続的に支援するために、ボランティアでは対応しきれない部分を当該事業専門のスタッフを雇用することで実現した。被災者が抱える生活上の困難を、制度の活用を支援することによって解消していくために、医療、介護、社会保障、行政手続等に関する研修・教育を行い、適切かつ、確実に制度を活用できる体制を整備した。

講師として藤田孝典氏（NPO 法人ほっとプラス代表理事）を招き、対人援助技術をレクチャーしていただいた。15名の専門スタッフを研修することができた。

(4) ニーズ調査

事業の対象となるような生活に困難を抱えた被災者を調査した。仙台市宮城野区内仮設住宅6か所において、高齢者、障害者を中心とした被災者80名にヒアリング調査を行った。また、現地で一般社団法人パーソナルサポートセンターとの情報共有を随時実施した。

(5) 制度の利用支援

掘り起こしたニーズをもとに生活保護、社会保険、義援金などの制度申請手続きサポートを行った。具体的には申請手続きのための資料作成や窓口への付き添いを行った。

### 3. 助成事業の成果

(1) 成果

約5割（38人）の住民が利用できる制度を利用できていないことがヒアリングから分かった。→内訳：生活保護（15）、義捐金（8）、医療費減免（6）、介護保険（4）

特に活用できていない制度が生活保護制度であった。高齢者の中には、この制度を利用できておらずに月2～3万円という国民年金だけでなんとかやりくりをしている人が少なくなかった。これには生活保護の申請の難しさが大きな壁となっていた。生活保護制度を活用することで月8万円ほどの生活費と医療の支給などが受けられ、きわめて不安定であった当人の生活の安定に寄与できた。

また、継続的な個別訪問により、住民の孤立や不安・ストレスの解消にも寄与できた。

「いつもお話に来てくれてすごうれしい。生活は大変だけれど、お話すると、また前を向いて頑張れるようになる。」「集会所に若いみなさんがいつも来てくれるようになってから集会所がいつも賑やかで、ここに来る住民も多くなった。」などのお声をいただいた。

(2) 波及効果

個別の制度利用支援が仮設住宅内のコミュニティを改善に寄与した。仮設住宅内のコミュニティでは、金銭的に生活への不安を抱えることが住民同士のささいなトラブルを巻き起こすことがしばしばあった。制度を利用できた方からは「(制度利用)前は生活

の不安からすぐにカットなってしまって周りの人にあたってしまうことがありました。制度を利用してからは、心に余裕が生まれました。」という声をいただいた。制度を活用できていないことが、当人の生活そのものだけではなく、精神的にも大きな負担となっていることが認識できた。



▲仮設住宅を戸別訪問し住民にヒアリングしている様子。

POSSE の活動を理解していただき貴重な助成をしていただいたことに、この場を借りて御礼申し上げます。今後も被災者の生活再建・復興支援のため、取り組みを継続し日々努力していきます。

NPO 法人 POSSE 事務局